



Title	2024年度見学旅行報告
Author(s)	カトウン, ハリマ
Citation	日本語講座年報. 2025, 2023-2024, p. 12-15
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102668
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



はじめに

本稿は、2024年度5月3日(金・祝)～5月4日(土・祝)に行った日本学専攻の留学生見学旅行に関する報告である。なお、旅行の行き先は高知県香南市野市町であり、旅館かとりで滞在した。

旅行の概要

1日目は箕面キャンパスからバスで出発して、旅館かとりで到着するまでにサービスエリアで10分ほどの休憩があった。移動にご同行してくださった二人の先生と、先に現地に着いていた他の先生とを合わせて、3名の先生方が私たちの引率をしてくださり、安全な道程であった。道中、レストラン「かつお船」で高地名物であるかつおの薫焼きを体験し、自分で焼いたかつおと一緒に昼食をとった。夕刻に旅館かとりで到着し、荷物を置いた後、手結港の可動橋を見に行った。見学を終えて旅館に戻り、入浴後、皆揃って浴衣に着替えて、旅館の宴会場の夕食に参加した。宴会パーティーでは歌舞伎を拝見した。「大阪大学留学生絵金歌舞伎、弁天座のワンランク濃い交流会」があり、高知県の伝統的な歌に合わせて現地の方々と一緒に踊ったり、歌ったりした。

2日目は、7時に朝食をとってから、旅館を出発した。この日はまず、赤岡町内の弁天座で巻き寿司を作る体験をした。留学生は2グループに分かれて、一つのグループは着物を着て町を歩き、もう一つのグループは、絵金蔵、弁天座を見学して、歌舞伎を体験した。歌舞伎では、白波五人男(駄右衛門、弁天、忠信、赤星、力丸)の五人と捕手の五人に分かれて、捕手の人は白波五人男に一人ずつ付いて所作をした。実際に歌舞伎の化粧やかつらをして、役を体験した。筆者は歌舞伎体験で捕手を体験した。昼食は、朝に作った巻き寿司を食べた。その後、抹茶とお菓子を食べ、大阪に帰った。4日の夜10時ごろに箕面キャンパスに戻って、一泊二日の旅行が終わった。

旅行の感想

旅行の前に見学旅行しおりをもらい、そこには全般的な注意事項、入浴マナー、見学旅行における案内・注意事項、もしものときの安心シート(救急医療情報)、持ち物リストが含まれており、また、旅行中にも先生からの指示やガイダンスがあり、安全だった。また、出発前は、日本ではそんなに渋滞がないだろうと思っていたが、ゴールデンウィークの祝日で大阪から高知県へ行く間に長い渋滞があった。帰る時も、行く時より長い渋滞があった。このことから、日本でも場所や時間によって渋滞があることを実感した。

レストラン「かつお船」では温かいおもてなしを受けた。初めての薫焼きの体験が楽しかった。自分で焼いたかつおと他の食べ物が美味しかった。筆者はイスラム教徒の人なので、ハラルフードしか食べられないのだが、旅行に行く前に食事の配慮について尋ねられ、筆者が何を食べられるのかを聞いてくださり、宴会パーティーでは幸せに食事を楽しむことができた。食事に関してこんなにも配慮してくださり本当に感謝している。日本では、人にこのような宗教的な話題を持ち出すことはあまりないが、それでも相手の気持ちを尊重しながら、相手の感情に焦点を当てる形で話を進めてくれることが多く、ありがたかった。

宴会パーティーで伝統的な歌を歌い、それにあわせて踊ったのが面白かった。日本の伝統的な宴の文化を体験した。弁天座で皆一緒に長い巻き寿司を作ったのも初めての体験だった。弁天座を出る前

に伝統的な仕方でお婆さんに抹茶とお菓子を出していただきとても美味しかった。それはまさに日本のホスピタリティだったと思う。

高知県の手結港は江戸時代の日本最古の掘り込み港湾である。可動橋の隣にある階段から遠くまで緑形式が見える。可動橋渡れる時間は1日に7時間だけである。橋の横にのぼることができる高い場所があり、そこからの景色がとても綺麗だった。

歌舞伎体験で捕手をする前に練習や、準備があって、弁天座の人々が優しく教えてくれた。歌舞伎の化粧をすると顔が元の顔と全く違うものになってしまうことに驚いた。筆者はイスラム教徒なのでヒジャブを着けているが、体験した役が捕手だったこともあって、着けたままでも歌舞伎の体験をすることができ、貴重な体験ができた。

おわりに

留学生が日本の文化・習慣に触れて体験するのにこのような旅行はおすすめである。二日間、日本人の生活を体験できるいい機会だろう。日本の食べ物や、日本語、日本の環境など色々なことが体験できて、いい経験になる。

短い期間だが、日本人としての生活を二日間ほど体験する貴重な機会となった。例えば、日本の伝統的な食べ物を味わったり、日本語での会話を試みたりすることで、より深く日本の魅力を感じることができた。また、日本の美しい自然や歴史ある建築、温かい人々とのふれあいを通じて、教科書やオンライン情報では得られないリアルな日本を体験できた。これらの経験は、留学生にとって忘れられない思い出になるだけでなく、日本への理解と興味をさらに深めるきっかけになると感じた。



レストラン「かつお船」でかつおの薬焼きを体験



宴会パーティーで歌や踊り



宴会パーティーでの先生方と学生たち



先生の歌舞伎を拝見



歌舞伎体験



巻き寿司の体験